

初の春播き栽培向けそば新品种「春のいぶき」

九州地域では、台風被害の回避と夏期の新そば提供を可能にするそばの新しい作型の導入が強く求められていました。九州の海岸地帯や南部地帯は、春に播種して初夏に収穫する作型（春播き栽培）が可能です。しかし、これまで春播き栽培用のそば品種はありませんでした。

そこで、九州平野部の春播き栽培において、多収でかつ難穂発芽性の品種を育成しました。

☆ 技術の概要

1. 「春のいぶき」は多収で難穂発芽性の春播き栽培向け品種の育成を目標として、中間夏型で多収性の「階上早生」から選抜と固定を行って育成した品種です。
2. 生態型は“中間夏型”で成熟期は「しなの夏そば」、「階上早生」よりやや遅い“やや早”です。子実重は「鹿屋在来」、「しなの夏そば」より多く、「階上早生」よりやや多い特性を示します（表1）。
3. 穂発芽は、「しなの夏そば」、「キタワセソバ」、「階上早生」より少なく、降雨後のそば粉の最高粘度は「しなの夏そば」、「キタワセソバ」、「階上早生」より高くなります。
4. 製粉歩留まりは「しなの夏そば」と同程度であり、「階上早生」よりやや低く、千粒重は「階上早生」と同程度です。
5. 「春のいぶき」の食味は、前年北海道産「キタワセソバ」より優れ、春播き栽培された「キタワセソバ」との比較では同程度かそれ以上となります（表2）。

表1 生育、収量

品種・系統名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	子実重 (kg/a)
春のいぶき	5. 15	6. 14	22. 9
しなの夏そば	5. 13	6. 11	19
キタワセソバ	5. 14	6. 12	18. 7
階上早生	5. 13	6. 13	21. 1

表2 食味官能試験

品種・系統名	収穫時期	色	味	合計
春のいぶき	6月	16. 9	16. 4a	81. 7
キタワセソバ	6月	15. 4	14. 9b	75. 3
キタワセソバ	9月	14. 0	14. 0b	70. 0

☆ 活用面での留意点

1. 鹿児島県で50ヘクタール、熊本県で10ヘクタール、大分県で20ヘクタール作付け予定です。
2. 南西諸島では晩秋に播種して1月に収穫する作型、九州地域では従来の秋栽培型も可能です。
3. 春播き栽培では梅雨期前に収穫できるように、晩霜の危険がなくなったら速やかな播種が必要です。
4. 詳細は九州沖縄農研・南西諸島農業研究チーム(Tel:096-242-1150)にお問い合わせください。
(中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男)